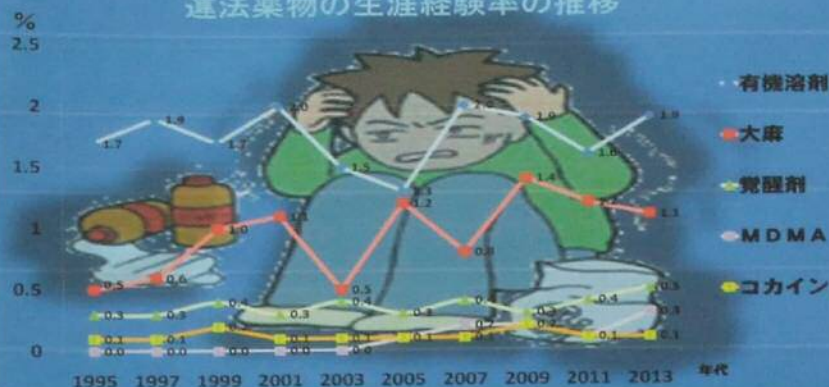


# 恐怖の薬物

薬物乱用、それは自分自身だけでなく 周りの人にまで影響を及ぼす社会的問題として重視されている。そこで、薬物乱用等の実態について調べてみようと思った。

違法薬物の生涯経験率の推移



左図を見ての通り、薬物の生涯経験率が少しずつ上昇していることが分かる。

大麻と覚醒剤の乱用についてはよくニュースで耳にするので、生涯経験率が他と比べ高いことは予想できたが、有機溶剤の生涯経験率が高いことに驚きを隠せない。

また、大麻と覚醒剤の生涯経験率が高いことに関心を抱き、次に麻薬と覚醒剤の検挙人員の推移を調べてみた。

右図を見てほしい。

覚醒剤の検挙人員に目が点になることであろう。検挙されている人員というには実際に乱用している人員のほんの一部にしかならないと思う。そう考えると、乱用している人がどれだけいるのか……。

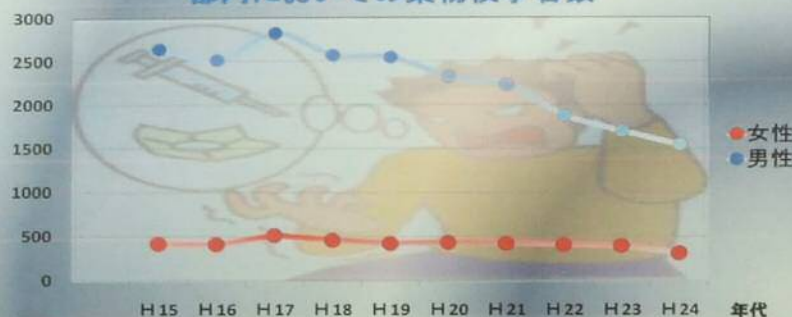
想像しただけでも恐ろしい。

昔に比べ現在では、薬物に対する取り締まりは厳しくなったかにもかかわらず、検挙人員があまり減っていない。あまりにも悲しい現実である。

麻薬・覚醒剤の検挙人員の推移



都内においての薬物検挙者数



次に、男女の薬物検挙者数に興味をもったのでてみた。予想していた通り、男性は女性に比べ、かなり多い。また、H15とH24を比べると、検挙者数の減り具合も急激である。これから、さっき述べた通り薬物に対する取り締まりが厳しくなったことがわかる。

最後に、年齢別検挙人員について調べてみた。

20～29歳層の割合が大幅に減っており、逆に40～49歳層の割合が増えていることに驚きである。私はこの結果の反対を想像していたので本当に驚きを隠せない。

年齢別検挙人員



## まとめ

薬物乱用等の実態について調べていくうえで、自分が予想していたことが覆された。また、新たな疑問も生まれた。それは、なぜ男性のほうが薬物乱用者が多いのか、なぜ若者ではなく40歳以上の人に薬物乱用が多いのか、ということである。こういったことをもっと知り、薬物乱用防止におおいに貢献したい。また、日本から、いや、世界から薬物乱用者がいなくなしてほしいと願うばかりである。